

(理) 科における令和元年度授業改善推進プランの検証

<p>取り組みにおける成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○昨年度に引き続き、観察・実験の技能・表現を高めるために、実験・観察の頻度を上げた。前年度は結果を分析する「思考力」や「表現力」については向上傾向にあったが、今年度は横ばいになってきているため、課題が考える力をつけたい。 ○3学年では、基礎的な知識定着率に向上が見られた、特に電気分野では目標値を大きく上回っており、引き続きこの状態を保ちたい。2学年では、特に前年の学習内容が定着できていないといった課題が見られた。 ○電子黒板等の活用により、資料提示の頻度が増え、発言などの様子から授業に意欲的な生徒が増えてきている。また実験手順の説明の効率化にもつながっている。
--

(理) 科における調査結果の分析

<p>内容別結果の分析</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○1学年：教科の正答率は目標値に対して0.4ポイント上回った。基礎は目標値に達しているが活用で目標値を約5ポイント下回った ○2学年：教科の正答率は目標値に対して4.1ポイント下回った。基礎では目標値に達しているが、活用では9ポイントと目標値を大きく下回った。 ○3学年：教科の正答率は目標値に対して3.7ポイント上回った。粒子分野のみ3.7ポイント下回ったが、他の領域では目標を大きく上回った。
<p>観点別結果の分析</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○1学年：「実験技能」において目標値9.9ポイント上回った。しかし、他の観点ではすべて目標値を下回った。 ○2学年：目標値に対し、「思考」で0.5ポイント上回ったが、それ以外の観点では目標値を下回った。 ○3学年：すべての観点で目標を上回った。特に「知識」において7.9ポイントと大きく上回った。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

<ol style="list-style-type: none"> 1 各学年の苦手分野における指導の充実を図る。 教科の特性として、お互い関連はあるものの、単元ごとに内容が大きく異なる。そのため、生徒にも単元ごとに得意・不得意が分かれやすい。今回の結果を元に、物理・化学・生物・地学4領域のうち、各学年が不得意とする領域について意識してより丁寧な指導を行う。 2 各学年とも単元別の問題演習や確認テスト等の頻度を増やし知識の定着、活用力の向上を目指す。
--

(理) 科の授業改善策

<ul style="list-style-type: none"> ○1学年では地学、2学年では植物、火山、状態変化と前学年の内容で正答率が低い。3学年では化学分野が苦手であるため、その単元を扱う際には、過去の内容の復習を丁寧に行い、導入の工夫やスモールステップを重ねた説明など、より理解しやすい授業を、時間をかけて実施するようにする。 ○用語や語句に対して正確な記述ができるように、単元別の問題演習や確認テストの頻度を増やし、生徒が繰り返し学習する機会をさらに増やす。授業毎に、既習事項の確認を行い学習内容の関連性を理解させていく。
--